

No2440 三本杭、篠山

平成26年11月14日(金)夜~16日(日) 晴れたり曇ったり

参加者: 嶋原(L) 岡本 片山琴美(16日記) 右田(15日記)

嶋原さんが企画した四国の三本杭と篠山に出かけた。天気めぐりあわせが悪くこのところ例会も中止が続いていたが、ようやく晴れが期待できそうだ。

14日(金) 21時に阪急池田駅に迎えに来てもらい、出発。中国道から瀬戸大橋を渡り、松山方面へ向かう。途中まできれいに星が見えていたが、松山が近づいたところで、雲行きが怪しくなり雨が降ってきた。「何で雨が降るねん。」「岡本さんが連れてきたんと違やうか。」「そんなことはないですよ。私が行くときは天気がいいですよ。」といつもの掛け合いをしながら、眠気を飛ばして進む。宇和島に着いたころには雨はあがっていた。高速を降りて立派なバイパスを通り、終点の道の駅「津島やすらぎの里」に2時過ぎに到着。駐車場の隅にテントを張り、仮眠。

15日(土) 6時頃起床し、三本杭の登山口に向かう。細く長い林道を走ると、案内板のある駐車場に8時過ぎに到着。各自車で朝食を済ませ、8時45分に出発。曇りで風があり結構寒い。コースは三本杭までいくつかの山を越えて行く。まず、9時10分鬼ガ城山に到着。樹林の中で展望はきかない。次に9時40分大久保山1158mに到着。ここは、樹木もなく、非常に眺めのよいところだ。宇和海が望める。大久保山を下ると、次の八面山1165mはすぐだ。さらに進みブナ林を通り、熊のコルを過ぎて三本杭への登りにかかる。まもなく鹿除けの柵を抜け、かつては笹原だったらしい1226mの頂上に10時50分到着。ここも展望がよいが、先ほどの大久保山よりも海からは離れている。三本杭という変わった名は藩政時代に宇和島藩、吉田藩、土佐藩の3藩が立てた3本の領地境界標柱に由来するらしい。しばし休憩するが、晴れたり曇ったりで寒くなってきたので、下山することにする。

緩いアップダウンを繰り返しながら、八面山は巻き道、大久保山頂上、鬼ガ城山も巻き道を選択し、登山口に13時35分到着。時間に余裕があるので、滑床溪谷を観光後、仮眠した道の駅に行くが、駐車場は車で一杯。パスして篠山の登山口に向かう。17時頃に篠山登山口駐車場に到着。先客なし。今晚は我々のみのようだ。テントを設営し、早速、鍋で宴会。ビール、ワイン、ウィスキー、焼酎をよ



(八面山山頂)



(三本杭への山道)



(三本杭頂上手前)

ばれ、わいわいと大いに盛り上がる。トイレのため、外に出て見上げるとすばらしい星空。やっぱりテント泊は楽しい。鍋の具材が切れるころ宴会終了。就寝。(以上右田記)

11月16日(土) 晴

テントを揺さぶっていた風が朝方に通り過ぎた。6:50起床。見上げると白い雲の波、その透き間に青空が覗いている。

朝色。テント撤収。篠山登山に出発(8:50)、右田さん以外は空身だ。頂上迄800m、楽勝だ…と言

うものの初めから階段の急登だ。この階段は何所まで続くのか？ ちょっと不安だ。

左に休憩小屋を見て少し行くと後 600m。観音寺跡を通りまだまだ続く階段。登るに従って大きな石がごろごろ、それでもまだ続く階段。稜線に出る。左は「はいらずの森」右に進み篠山神社の階段を上る、鳥居と拝殿、結局最後まで殆ど階段だった。 拝殿の裏の高台に出る。連華台と言う一等三角点のある篠山の山頂（1060m）だ。

「北 土佐」 「南 伊予」と刻まれた大きな石柱が建っている。

その前に小さな池がある。昔、この池に大きな立岩があつて国境としていたそうだが、今はその巨大な岩が見る影もない、何所に行ったのか？

少し下の岩の上で休憩、見廻す限り山、山、山の重なり、少し霞んでいる。この辺りの亜熱帯樹林は太平洋からの寒風と暖風で白骨化するそうだ。 分岐に戻り「はいらずの森」に入る。姫笹の保護の為、藁で編んだ薦がきちんと歩道に敷かれている。まわりは多分曙つつじの群生地と思われる（花が咲かなきゃ分らない）。「はいらずの森」を一周して下山。途中二人の登山者に会った、一人はお遍路姿、篠山は四国八十八ヶ所の番外所でした。

駐車場に戻り、祓川温泉に入って帰路に着く、山裾や道路脇の芒が行



(篠山山頂、南伊予側)



(篠山山頂から北方面)



(篠山山頂手前の階段)

く秋を惜しむ様にはほほけた頭をそよがせている。身に詰まされる。

18時過ぎ大阪に戻りました。鳴原さん長時間の運転ご苦労様でした。有難う御座いました。同行のお三人様本当に有難う御座いました。

11月16日 行程：

6:50 起床＝出発 8:35→9:17 篠山山頂 9:30→9:45 はいらずの森→10:10 駐車場 10:20→10:40 祓川温泉
11:30→18:15 川西駅